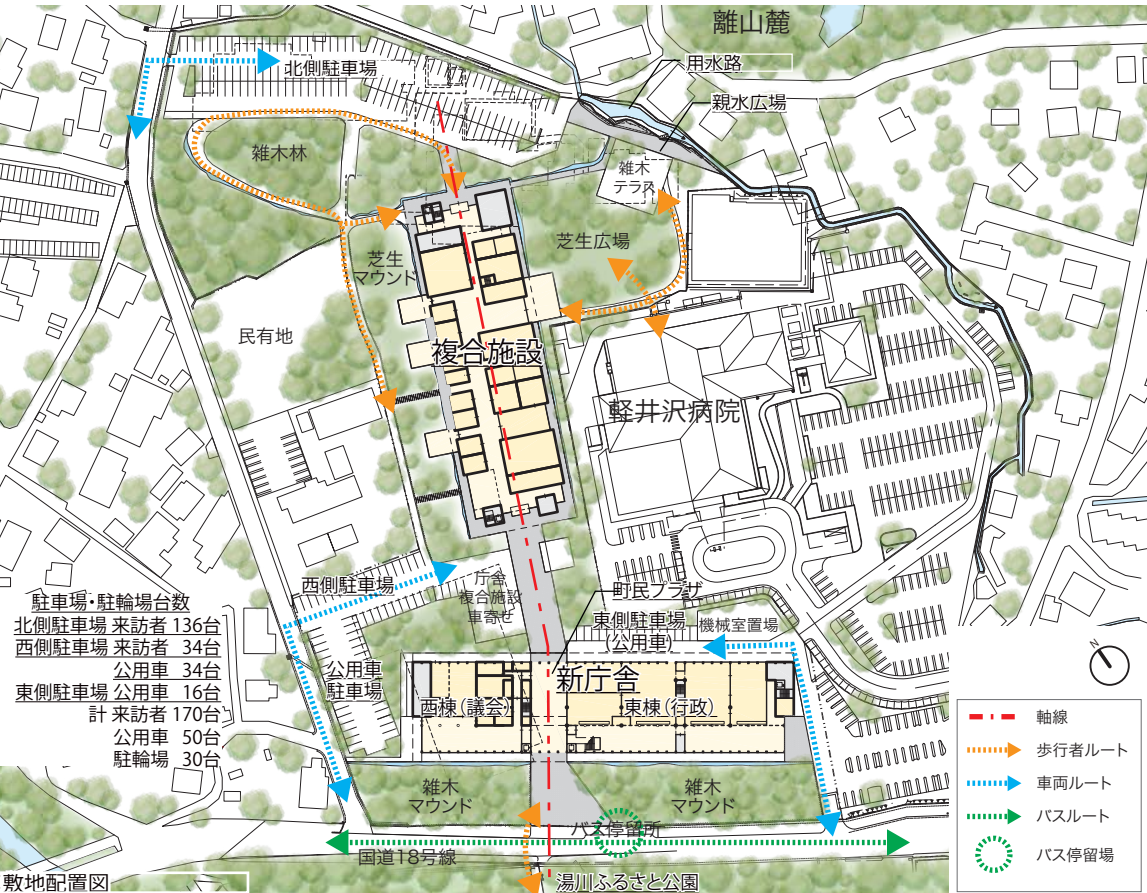


1. テーマ1「庁舎建設及び周辺整備基本方針」について

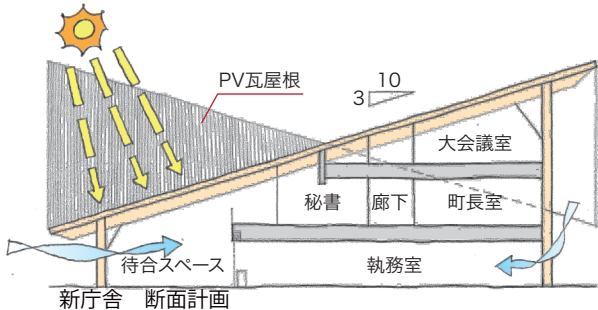


1-1 配置計画

住民サービスと行政業務の利便性に優れ、庁舎としての象徴性を持った新庁舎は国道18号線に面して配置し、東西リニアでシンボリックなファサードを作りました。住民自治の交流の中心となり、防災拠点となる複合施設は新庁舎との一体利用が図れるよう、新庁舎の背後北側に直行するように配置され、南北に強い軸動線を形成します。

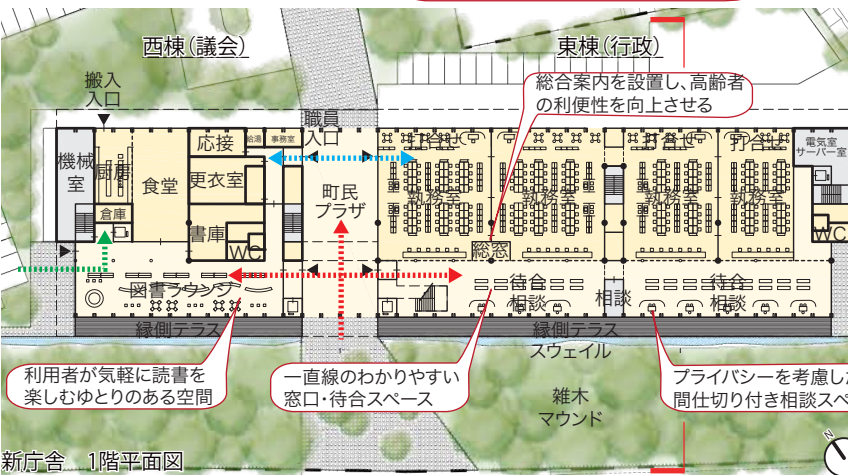
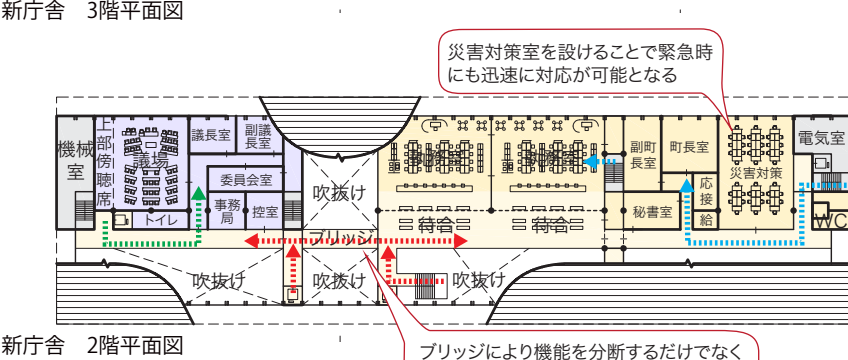
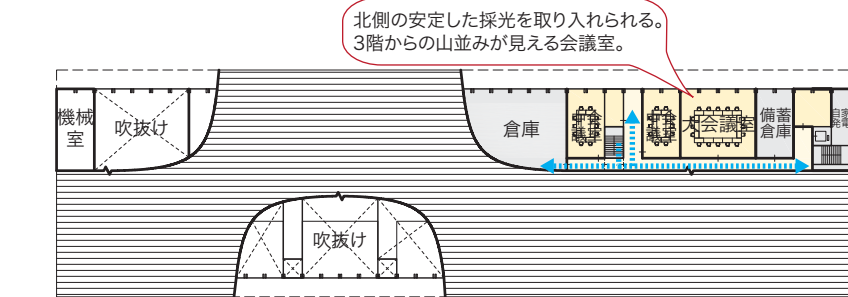
1-2 シンボリックな建築

庁舎としての気品のあるシンボル性を持たせる為、120mの木造コロネードに支えられた入口(町民プラザ)に向かって起伏する勾配屋根を持ったファサードとしました。ファサードは全面ガラス張りとし、庁舎の透明性と住民への開放性そして景観への連続性を持たせました。



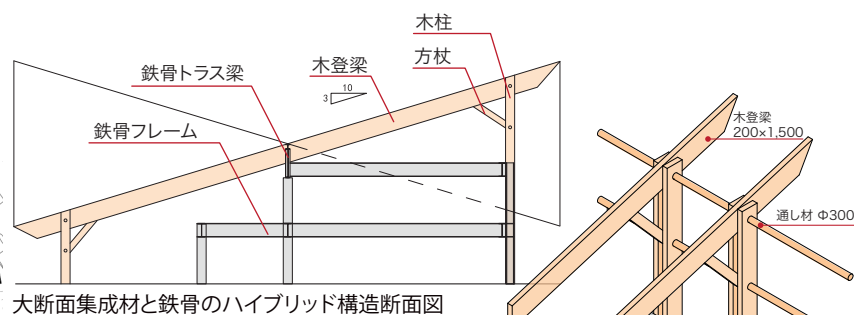
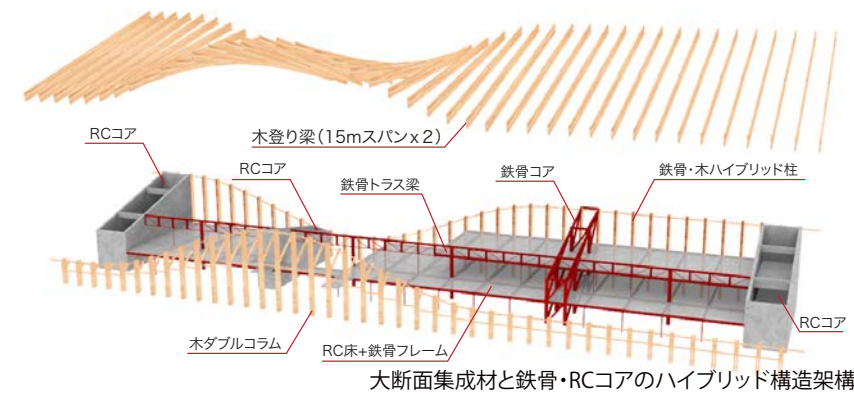
1-3 利便性と働きやすさ

住民の利便性を最大限に確保する為、シンプルで分かり易い平面・断面計画としました。住民の待合やラウンジ空間は明るい南側に一直線に配置され、目的窓口へ行きやすく、待ち時間も気持ちよく楽しい室内空間となっています。また執務空間は自然光が十分に入り、柱がほとんどない直線状のフレキシブルなスペースとなっています。



1-4 県産木材を使った構造

県産材を最大限に使った木造らしい準耐火構造(燃代設計)を実現するため、執務空間には鉄骨を挿入した合理的なハイブリッド構造としました。屋根中央には、上下弦材を鉄骨とし、木登り梁を束材とし、大トラス梁を構成しました。トラス梁から2階の床を吊ることにより、1階執務スペースをほぼ無柱の使いやすいフレキシブルな空間を実現しました。屋根は直線木登り梁を徐々にずらしHPシェルを作り町の勾配屋根基準を守り、結果として国際文化観光都市に相応しいアイデンティティーがあり、フォトジェニックであり、景観に調和した建物としました。



新庁舎 面積表

来訪者ゾーン	576㎡
職員ゾーン	3,617㎡
議会ゾーン	541㎡
機械室	725㎡
トイレ・廊下等	1,776㎡
合計	7,235㎡

